

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、本園における実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

1. 園の教育目標

- 人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児をめざす。
- 意欲・関心のある子ども
 - 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
 - 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
 - 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
 - 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
 - よく考えて行動する子ども（態度）
 - 自ら健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
 - 言葉で経験を表現し、言葉で理解しようとする幼児。
 - 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
 - 自分で考えてものごとじにじっくり取り組む幼児。
 - 心の豊かな子ども
 - 豊かな感性・創造性をもち、素直に表現する幼児。
 - 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
 - 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 平成24年度に取り組むことが必要な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価

評価項目	取組み状況
1、保育の計画性	本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに、教育課程の説明会に全教職員を交代で出席させ、新教育要領の理解に努め、教育課程の編成にあたっている。週案会議を実施し、細かな計画性もできてきたが、子どもの実態や周囲の状況の変化に気づき、自由に変更し順応性のある保育になるよう計画と反省が必要である。
2、保育のあり方・子どもへの対応	朝の登園時は、全職員が担任という考えで、子どもを迎え入れ、

	<p>不在の担任に報告・連絡をし、安心して登園できるようにしている。しかし、子どもへの言葉かけだけでなく、表情を読み取り、目に見えない心の育ちを見逃さない配慮が必要である。指導上配慮を必要とする子どもについては、ケース検討会を実施し、担任だけでなく、全職員で子どもの良さなどを多面的にとらえるようにしている。クラスの枠をこえた情報を共有できるよう、職員の意識向上も必要である。毎年、異年齢の交流ができるよう保育形態を工夫しているが、マンネリ化になりがちである。子どものモデルになるよう、ことば遣いも、お互いに注意し合う環境が必要である。</p>
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<p>専門家として、常日頃から新聞・雑誌を読んで気になった記事は、みんなに紹介し、職員集団の向上を図る。保護者との信頼関係があつてこそその幼児教育であるから、保護者へわかりやすく話すための努力と子どもの成長を喜び共に学び合う謙虚さが必要であることを意識し合つて取り組んでいる。しかし、組織として、報告・連絡・相談が欠ける事もある。ことばづかいについては、敬語がうまく使えない時があり、課題である。</p>
<p>4、保護者への対応</p>	<p>指導上配慮を必要とする子どもについて保護者と話す時は、誤解が起きないように、直接、会つて話すようにしている。毎学期、クラス懇談会や個人面談をし、子どもの園での様子、家庭の様子など情報交換する。園での様子はクラスだよりを工夫し、保育参観、保護者不参加の行事は、DVDで撮影し、視聴できるようにしている。保育者は、正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いるよう心がけているが、慣れてくると、友だち言葉になることがある。</p>
<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<p>地域のふれあい農園に種植えや収穫に参加し、お世話をしている方や地域の方々とのふれあいがあつた。週一回、園外保育に出かけ、出会つた方々に挨拶をしたり、声をかけてもらつたりしている。子どもが大好きな場所はプリント等で紹介した。小学校との連携では、授業参観に出席し、意見交換をするが、園児と小学生との交流は年長児が主である。就園前の親子への支援は、施設の問題もあり、年間9回程度しかできないので、今後の課題である。</p>
<p>6、研修と研究</p>	<p>各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて提供し、共有化を図るようにしている。ケース検討会も実施し、上手く表現できない園児の支援に役だった。教材研究をもっと深めることも課題である。</p>
<p>7、教育内容</p>	<p>幼稚園の教育目標に従い、教育課程を編成・実施している。子どもの発達や実態応じ、内容や実施の仕方を変えた。教職員全員で一人ひとりの子どもを育てるという考えで、小さな出来事も報告・連絡・相談しながら担任以外の助言にも耳を傾ける。しかし、会議をする姿勢と進行が課題となった。</p>

8、地域の幼児教育センターとしての役割	<p>園の教育方針や取組みを情報発信するため、毎月、ホームページに記載してきたが、内容について研究が必要と思う。園児保護者対象の相談会は実施したが、外部まで広がっていない。</p> <p>在園児以外の2歳児対象に年9回程、保護者と一緒に、来園してもらい、未就園児保育体験を行なっている。ただし、保育室が狭い為、人数が限られている。</p>
9、安全管理	<p>不審者情報が携帯電話に入るようにしている。不審者が園内に侵入しないように、鍵をかけている。危機管理マニュアルを作成し、職員に徹底している。しかし、保護者にも鍵の施錠徹底をお願いしているが不十分だったため、出入りの多い時間帯は、職員が門に立つようにした。また、園児の教育として、交通安全教育・水難事故教育・火災・地震訓練等を実施したが、防犯訓練ができていない。</p>
10、財務管理	<p>公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。</p>

4. 総合的な評価結果

自己評価の中で、具体的な内容評価に個人差があった。自分の保育を見直す機会となった保育者もあった。自己評価の内容についても、もっと本園の保育が充実するよう、各保育者の課題を明らかにするため、評価内容を具体的に示した話し合い・検討を重ねる必要がある。保育ばかりではなく、施設面や環境整備面でも不十分であることを痛感した。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	<p>現在、園だよりやクラスだより、参観日などを通して保護者への周囲徹底には取り組んでいるが、更に進んだ情報公開として、一般の方が利用しやすいホームページなどへも毎月の行事公開をもっと充実させなければならぬと思う。また、学校関係者評価委員会を組織し、情報公開に努力が必要である。</p>
自己点検、自己評価	<p>最低限の基本の項目を点検課題として挙げているが、本園で重視している心の育ちをはぐくむための教職員の課題をもっと深め、自己研鑽に取り組むよう点検内容を検討する。</p>

6、学校関係者評価委員会の意見

本園は学校関係者評価委員会を設けていないため意見は聞けなかった。